

シリーズ「乳がん⑤」

乳がん検診とマンモグラフィ

独立行政法人国立病院機構和歌山病院

放射線科 菊川 絢子

『乳がん検診』という言葉を最近よく耳にします。女性芸能人がテレビで乳がんを告白したことがきっかけで、検診の重要性がクローズアップされているこの機会に、乳がん検診とマンモグラフィについてお話ししたいと思います。

現在、日本で行われている検診は対策型検診と任意型検診があります。乳がん検診は対策型検診に当たり、対象となる全ての方の死亡率を下げることを目的とし、予防対策として行われる公共的な医療サービスの一環です。費用は公的資金を使用し、無料もしくは少額の自己負担で受診できるため、その限られた予算の中で行った検診で、がんで亡くなる方を減少させるといった結果が必要となります。乳がん検診には視触診、超音波、MRI、マンモグラフィと大きく分けて4つの方法がありますが、マンモグラフィは継続して受けた場合、乳がん死亡減少率が15%〜20%低減したというデータもあり、費用対効果に優れる点からも対策型検診に採用されています。

では、マンモグラフィとはどんな検査でしょう。受診者の上半身は裸

分があります。

近年の欧米では40歳代のマンモグラフィはメ리트がないといった見解が出ています。年齢が若いと乳腺が多くなる傾向にあり、マンモグラフィでは乳腺も乳がんも両方白く写るため、見つけにくいからです。日本の女性は欧米の女性と比べて乳腺が多く、がんになりやすい年代のピークが40歳以降と若い傾向にあるため、さらに見つけにくいといえます。それならば「若いうちは乳がん検診を受けなくても良いのでは？」と思うかもしれませんが、40歳以上で乳がん検診を一度も受けていない方は『対策型』乳がん検診を受けてみてください。受けてみて、痛みが強くて合わない・乳腺が多いのでマンモグラフィでは見えにくいなどが分かったなら、MRIや超音波を使用した『任意型』乳がん検診に切り替えられます。ご自分に分かった乳がん検診を選択するためにも、ぜひ一度受診していただきたいと思っています。

最後に、今までも女性芸能人が乳がんになる度に検診の重要性は言われてきましたが、その注目度が継続することはありませんでした。今のこの状況を一過性のものにとせず、受診者に認知されるよう、乳がん検診に携わる医療従事者としてその重要性を訴えかけ続けたいと思っています。